

## 小川で楽しく生態調査

### 小川と仲良くなろう

8月4日、白川小奥地区の小学生を対象に、「小川と仲良くなろう」(小奥地域環境資源保全隊主催)が白石川支流の土手川上流で開催されました。この催しは、農地・水の環境保全と、子どもたちに環境について考えてもらうことを目的に行われており、今年で8回目。この日は、同地区の小学生など約30人が参加しました。川の水質検査を行った後、小川に入り、網を使って生物を採取。参加した児童は「きれいな水にしか生息しないヤマメやサワガニがいたので、川の水がきれいだと分かりました」とうれしそうに話してくれました。



▲楽しみながら生き物を採取し、きれいな水環境の大切さを学んだ

## 明るい地域社会づくりのために

### 「安全で安心なまちづくりに関する協定」締結式

7月17日、防犯ボランティア団体である白石PSC (Police:警察、Student:生徒、Cooperation:協力の略)パトロール隊と白石警察署(三浦英幸署長)とが結ぶ「安全で安心なまちづくりに関する協定」の締結式が行われました。同隊は市内中学校の生徒約100人で構成。安全安心な明るい社会づくりのために、万引き防止や交通事故防止、いじめ撲滅を呼び掛ける活動を展開しています。この日は、同隊の隊長佐藤舞さん(小原中2年)が、スパッシュランドパークの清掃やJR白石駅前でのあいさつ運動など、昨年度の活動内容を発表しました。



▲活動内容の発表を熱心に聞く参加者たち

## 福祉の魅力に触れる

### 中学生がえんじゅで福祉体験

7月28日、「2014『福祉体験学習 チャレンジ!ボランティア!』(中学生編)」が特別養護老人ホームえんじゅ(藤本邦夫施設長)で行われました。この催しは、白石市社会福祉協議会が、中学生の社会福祉への関心を高めることを目的に毎年開催。市内の中学生21人が参加しました。参加者は、入所者たちとじゃんけんゲームなどで触れ合ったり食事の介助を行ったりして、楽しい時間を過ごしながらか介護職への理解を深めていました。参加した生徒は「将来、介護の仕事を考えているので参考になりました」と笑顔で話してくれました。



▲じゃんけんゲームで触れ合うと、自然と笑顔になった

## 震災前の景色よ 再び

### 鷹巣コミュニティー推進協議会が植樹

7月15日、白石ライオンズクラブから市に寄付された桜(ソメイヨシノ)の苗木15本の植樹が、緑が丘第1公園で行われました。この日は、市が進めている白石市制施行60周年記念事業「花と緑のまちづくり」の一環として、白ツツジ100本の植樹も行われ、鷹巣コミュニティー推進協議会のメンバー8人が参加。同協議会の事務局で、緑が丘自治会の茂林憲童自治会長は「以前植生していた桜が震災の被害を受けてなくなってしまいました。今回植栽した桜が成長して、震災前のような公園の風景に戻って欲しいです」と笑顔で話してくれました。



▲植樹した苗木を前に記念撮影する同協議会の皆さん

## 世代を超えて笑顔で交流

### 第一・第二児童館利用者が清風を訪問

8月7日、第一児童館・第二児童館の放課後児童クラブに通う児童としろいし母親クラブ(佐々木とし子会長)約50人が介護老人保健施設「清風」を訪問しました。この催しは、児童たちが高齢の方たちと触れ合う機会を増やすことを目的に平成18年から毎年実施。「うーめん体操」を披露した後、同クラブ会員による大型絵本の読み聞かせ、施設利用者とはペアになって行った手遊び・肩たたきで交流を深めました。この日の最後には、児童たちがメッセージを書いてプレゼント。利用者たちと楽しく交流を深めていました。



▲利用者と手遊びなどで触れ合う児童。笑顔で交流を深めた

## 食べるのがもったいな〜い!

### 第一児童館で「お菓子の家づくり」

7月24日、第一児童館放課後クラブと第一小学校放課後児童クラブの児童1~6年生約100人を対象に「お菓子の家づくり」が第一児童館で開催されました。この催しは、NPO法人FOR YOUにこにこの家(小岩孝子理事長)が東京や関西など7人のボランティアと「東日本大震災後の子どもたちの笑顔のために」と実施。作り方の説明を受けた児童たちは、スポンジケーキやクリームなどを使って慎重にお菓子の家を作りました。参加した児童は「みんなで一緒に楽しく作れました。おいしそうだけど、食べるのがもったいない」と笑顔で話していました。



▲慎重にお菓子の家を作る児童たち

## キーコが友だち作りにやって来た

### 北海道新幹線「木古内駅」PR活動

7月28日、木古内駅新幹線観光駅長を務める木古内町のご当地キャラクター「キーコ」が北海道新幹線をPRするため市役所を訪れました。北海道新幹線は平成28年3月に新青森~新函館北斗間が開業予定で、木古内駅は北海道側の最初の駅。「キーコ」が5,000人の新しい友だちを作りながら同駅の開業をPRする「友だち倍増計画」を実施しています。この日は、「ポチ武者こじゅーろう」などと記念撮影をしながら木古内駅をPRしました。「キーコ」の友だち作りの様子はfacebookでご覧いただけます。  
<https://www.facebook.com/kikonai.ki.ko>



▲「ポチ武者こじゅーろう」と友だちになった「キーコ」(左)

## 郷土の味を体験

### 園児が製麺会社で「手延べ温麺」の昼食

7月15日、はるかぜ保育園(半澤京子園長)の5歳児20人が、きちみ製麺光庵(吉見光宣社長)で温麺の昼食を楽しみました。この催しは、「郷土の本物を知ってもらおうのが保育目標の一つ。郷土の味である、昔ながらの製法で作る手延べ温麺の味を知って欲しい」と同園が企画。園児は、吉見社長から温麺の長さや作り方などの説明を聞いた後、手延べ温麺の味を楽しみました。食べ終えた園児たちは「麺が光ってました」「つるつるして、すごくおいしかったです。休みの日に来て、また食べたい」などと感想を話してくれました。



▲手延べ温麺の味を堪能した園児たち